

2016年度 第12回「若手研究者支援プログラム」のお知らせ

奈良女子大学古代学学術研究センターは、第12回「若手研究者支援プログラム」を、8月21日（日）・22日（月）の2日間、奈良県立万葉文化館及び科学研究費基盤研究B「海外敦煌書儀・六朝尺牘文献の古代日本への受容実態の解明」（代表：信州大学西一夫）との共催で開催させていただきます。

今年は、「漢字文化の受容—東アジア文化圏からみる手紙の表現と形式—」というテーマで、日本と中国の手紙、すなわち現実に交わされた書状とその模範文例である書儀とに着目し、それらの表現や形式を比較検討することを通して、日本における漢字文化の受容のあり方を考察します。

第1日目には、敦煌書儀研究が御専門の山本孝子氏、中国書道史研究が御専門の河内利治氏をお招きし、日本古代の人々が手本としたであろう中国の手紙について御講演をしていただきます。特に河内氏には、書道の実技も交えてわかりやすく解説していただきます。

第2日目のシンポジウムは、中国の書状や書儀の、日本における受容のあり方を、国文学・国語学・比較文学・古代史学などの様々な角度から解明しようという試みです。実用文書であり歴史資料でもある一方で、時に、文学や書としての作品性をも備える手紙というものについて、専門分野を越えて考える機会になれば幸いに存じます。

本プログラムは、主に語学・文学分野の若手研究者の研究支援を目的としていますが、広く専門の研究者或いは一般の方々の御参加も歓迎しております。年齢やキャリア、専門分野などを問わず、多数の方々が御参加くださることを期待しております。

なお、大学および研究機関等で御指導に当たられている先生方におかれましては、ぜひ大学院生・研究生諸氏にお知らせいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

奈良女子大学古代学学術研究センター

若手研究者支援事業担当 奥村 和美

記

第12回「若手研究者支援プログラム」

漢字文化の受容—東アジア文化圏からみる手紙の表現と形式—

主催 奈良女子大学古代学学術研究センター

共催 奈良県立万葉文化館

科学研究費基盤研究B「海外敦煌書儀・六朝尺牘文献の古代日本への受容実態の解明」（代表：信州大学西一夫）

第1部 公開講演会 奈良県立万葉文化館第15回夏期セミナー

8月21日(日)13時～16時30分 (於 奈良県立万葉文化館 受付12時30分～) (無料)

※万葉文化館特別展の御観覧には別途観覧料が必要です

手紙の作法——書儀の実践・応用

講師 京都大学非常勤講師 **山本 孝子**

書の筆法から見る木簡・尺牘の世界

講師 大東文化大学教授 **河内 利治**

* 終了後、懇親会。専任教職員等4,000円 学生3,000円

第2部 シンポジウム

8月22日(月)10時～16時 (於 奈良女子大学 文学系北棟202教室) (無料)

『杜家立成雑書要略』の書儀的表現

報告者：信州大学教授 **西 一夫**

書状と公文—正倉院文書の書状をめぐって—

報告者：九州女子大学教授 **奥田 俊博**

写経生・実務担当者の選択—「啓」という書式を選ぶ時—

報告者：奈良学園大学教授 **桑原 祐子**

古文書と古往来—日本の書札礼の周辺—

報告者：関西大学教授 **乾 善彦**

全体討論

司会：奈良女子大学教授 **奥村 和美**

申込方法

〈一般参加の場合〉 申込み手続き不要

〈研究者として参加の場合〉

☆大学院生以上の研究者を対象としています。

以下のフォーマットを御使用の上、下記宛先までメール・ファクシミリ・郵送のいずれかで、8月16日(火)までにお申込みください。郵送の場合は16日必着でお願いいたします。メールの場合は、標題に「若手研究者支援プログラム参加申込」と御記入ください。

申込宛先

〒630-8506 奈良市北魚屋東町
奈良女子大学コラボレーションセンター205号室
奈良女子大学古代学学術研究センター
電話・FAX 0742-20-3779
E-mail kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
2016年度 第12回「若手研究者支援プログラム」参加申込書

氏名(ふりがな)

所属大学／機関名

所属学部／部署名

学年／役職

郵便番号

住所

電話・FAX番号

メールアドレス

参加日程 (○印を記入してください)

21日(日) ()

22日(月) ()

21日懇親会() 近鉄奈良駅近くで開催の予定

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
以上